

コミュニティとアート 活動記録(2023)

○コミュニティとは、ずばり人とのつながりである。私たちは今までコロナ禍で、人との交流が制限されてきた。今回「コミュニティとアート」の講義を通して、柏原市の方たちと様々なイベントに参加し、また自らも企画を立ち上げた。

10月 ハロウィンオブジェ作り

松下 萌葉

アート

カボチャの形の発泡スチロールにペンキで色付けしたものをたたく



スチロールカッターで"面"を切り落とす様子。小さなかぼちゃのオブジェと、がいこつの被り物を作製した。

コミュニティ

河内国分駅前のお弁当屋さん tant tantさんの店内で被り物をして宣伝写真を撮った。

絶品のかぼちゃグラタンの一日限定販売をお手伝い。

10月 かしわら芸術祭(ホコ天)

10月22日 柏原市のオガタ通りにてハロウィンのホコ天に参加♪

ハロウィンイベントで作ったカボチャをブースに置かせてもらったり地域の子もたちとマントを作った。

主催者さんや作家さんとお話すると「柏原市をアートで盛り上げよう！」という活気が伝わってきた！まさにコミュニティとアートとの繋がりを感じた。



八木紗羅

10月 かしわら芸術祭準備 オーガンジーの布貼り ボランティア

岩村木乃春

かしわら芸術祭に向けて、長瀬川・清洲橋周辺と了意川をオーガンジーの布で飾りつける活動に学生が参加した。

地元の方々と協力して広範囲に結び付けられた布は美しく風にたなびき、活動終了後の川は壮観だった。



11月 ブラインドのリフォーム

中村奏有

古くなってしまったブラインドのリフォームを行った。ブラインドの下面に色とりどりのビニールテープを貼り、下から見上げると様々な色が現れるようになっている。



地域商店会さんのコミュニティスペース「ふれあい館オガタ」2Fルーバーのリフォームアート

11月 今町老人会館

田道玲向

異なる年齢の層との交流と、展示会場の設置方法などを、学ばせていただきました。



11月 かしわら芸術祭

田端佑衣

かしわら芸術祭では地域の方々の作品が並ぶ中私たちは受付作業のアシストをおこなった。受付作業終わりに作品の作者さんから作品のこだわりポイントを聞くことができたり、地域で展示をする時の難しさなどを知ることが出来た。




クリスマス

杉浦七弥

～灯籠で光ある空間を～

灯籠からこぼれる光でクリスマスの空間を明るくしたいという想いから制作した。灯籠の材料として粘土(素焼きしたもの)と竹を使用した。

角材に薄く広げた粘土を巻き付け、そこにクッキーの型抜きを使用しハートやヨット、他にもお花、星など様々な形を切り抜いた。

竹はドリルで丸い穴をあけ、模様になるよう工夫した。左の写真がタントさんの段階で展示させていただいた様子。竹の中から光がこぼれる様子が綺麗で、また光が反射して竹に移っている様子も美しいものとなった。



1月 屋台村

～STEAM教育とのつながり～

OSTEAM教育とは
S(Science), T(Technology), E(Engineering), M(Mathematics)の理科や数学的要素に、A(Art)美術的要素を加えた教育活動である。

○今回の活動
「コミュニティとアート」と「デザイン演習」受講者である美術教育専攻三回生の学生が屋台を作り、それらを自然科学専攻二回生の学生に体験してもらい、お互いに美術的要素、科学的・数学的要素があったか交流する活動。

ベトナム現地の小学校の先生に実践してもらう予定。

二枚目に屋台村の紹介を掲載。 杉浦七弥、岩村木乃春

屋台村の紹介

屋台名:「ミノミノノムシ」
Art側面: モールでミノシたちをカラフルにする。
理・数側面: ミノシとモールを繋げる接着剤の代わりに磁石を利用。

屋台名:「プカプカプク」
Art側面: 色の温度の違いにより色の変化を導く。
理・数側面: 水と油が混ざりあわない現象を利用。

屋台名:「ノアの箱舟造船所」
Art側面: 自分の好きな船を制作する。
理・数側面: 耐久性が強い船はどんな特徴を持っているのか実験。

屋台名:「混色キング」
Art側面: 混色を行うことで色がかわること。
理・数側面: 減法混色によりカラーコピーや写真などに利用されている。

屋台名:「色メガネでぬりえにチャレンジ」
Art側面: いのちと違う色の組み合わせができる。
理・数側面: ある色を通してみることで本来の色と違うように見える。

理科の学生と互いに話し合うことで、「こんなこともできそうだな。」「これを利用するのはどうですか?」など私たち美術の学生には思いつかないような面白い意見を聞くことが出来た。違う分野同士が繋がることで、今の現状からより発展した活動が行えるのだと感じた。

杉浦七弥

1月 描き初め

西郷 舞桜

河内国分駅前のお弁当屋さん tant tantの2階で描き初めをした。書き初めではなく「描き初め」ということで絵を描いたりシールを使って自由に楽しく制作できた。幅広い年齢層の方々が参加し笑顔溢れるイベントとなった。




コミュニティとアート

Community and Arts
Project book 2023-2024

表紙制作: 岡本緯吹

○さいごに
私たちはこの講義を通し元々地域で開催されていたイベントに参加し、イベントを行う時にはどのような注意点があるかを知ることができた。また、参加をすることだけで終わらずに自分たち1人1人で屋台をつくりイベントの中心となって動く経験を積むことができた。

今まで関わりの薄かった地域の方々とたくさんお話をすることができ、そういった人と人とのつながりによって地域が支えられているということを知ることができた講義だった。